

水耕ネギの培地廃棄量ゼロと省力・多収・低コスト化技術

1 中核機関・研究総括者

広島県立農業技術センター 越智 資泰

2 研究期間

2004～2006 年度（3 年間）

3 研究目的

水耕ネギ栽培では、培地はウレタンであり田畠等に廃棄蓄積される。また、移動しながら 1 株ずつ定植や収穫を行うため作業効率が悪い。そこで、再使用可能な培地を用いた育苗法、播種から収穫まで一貫して用いる条播きトレイ、作業者が移動せず定植・収穫できる栽培管理器具、かつ、栽植密度と栽培環境の最適化による多収技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 培地廃棄量ゼロと省力・低コスト化を目指す育苗法の開発（広島県立農業技術センター、広島県立東部工業技術センター、株あべダンボール）
条播きトレイを開発するとともに、鉱物由来培地と組み合わせた育苗法、培地の洗浄法を開発する。
- ② 作業効率を高める栽培管理器具の開発（広島県立農業技術センター、広島県立東部工業技術センター、株あべダンボール）
作業者が移動せず定植・収穫できる栽培器具（定植パネル連結器具、倒伏防止器具）、収穫時にネギを分離する作業台を開発する。
- ③ 栽植密度と栽培環境の最適化による多収技術の開発（高知大学、広島県立農業技術センター）
生体情報計測技術を用いて、栽植密度の増加と CO₂ 施用、養液管理改善による多収技術を開発する。
- ④ 現地試験（広島県立農業技術センター、広島県立東部工業技術センター）
現地試験を行い、有効性を実証する。

5 目標とする成果

培地廃棄量ゼロと水耕ネギ農家の経営向上が可能となる。その効果は、年間（6 作）10 aあたり、培地費用削減で 20 万円、雇用労賃削減で 30 万円の低コスト・省力化と、収量 1 割増で 50 万円の所得増となることが期待される。